

第32期目録委員会記録 No.7

第7回委員会

日時：2009年11月28日（土）14～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、鴫田、平田、古川、横山、渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. Names of Persons 改訂に向けて（検討メモ）（3ページ-A4、東委員）
2. Names of Persons （日本語該当部分）（4ページ-A4、東委員）
3. 目録の提供と作成に関する調査（6ページ-A4、木下委員、酒見委員）
4. NCR改訂の方向性について（検討メモ）：平成21年11月28日改訂版（4ページ-A4、原井委員長）
5. NCR改訂スケジュールと関連事項（案）：平成21年11月28日改訂版（1ページ-A4、原井委員長）
6. NCRの改訂に関する個人メモ（6ページ-A4、古川委員）
7. 第32期目録委員会記録 No.5（4ページ-A4、事務局）
8. 第32期目録委員会記録 No.6（案）（4ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認  
第6回記録案（資料8）を確認した。
2. 来年度図書館大会での分科会開催に対する申請の現状を確認した。事務局から、申し入れは既に行ったことと、結果の正式な確定は来年になることの2点が報告された。

[検討事項]

1. Names of Personsの改訂について

東委員から、IFLA目録分科会が進めている標記の件について、日本語部分の見直しを行い、改訂案を2010年1月15日までにIFLA目録分科会に提出する必要があるとの説明があった。

次いで、資料1と資料2を参照し、記述内容の確認、事例の修正や追加、削除等について意見を交換した。なお、見直しに当たって、分量が制限されていないことはIFLAから承認済みである。

以下に指摘事項を資料2の構成に従って示す。

<Preliminary note>

- ・冒頭文（「明治期までは多くの日本人は名字を持たなかった」）の扱いについて
  - ・この文章から始まることに違和感がある。
  - ・次の文章中の「former」という表現は前文の内容と矛盾しているのではないか。
  - ・3行目の文章の内容（「Both the family and personal name ....」）を冒頭とした方が適切ではないか。
    - ・family nameとpersonal nameで構成されることが通常である。
    - ・personal nameのみの場合（現行の冒頭文の内容に相当）もあることを付加する。
- 3行目の文章内容を冒頭とし、現行の内容は通常の場合の説明（family nameとpersonal nameを持つ）の後に位置づける。
  - ・「Similarly, romanized Japanese names ....」の文頭の「Similarly」を、「Conversely」のような別の語にする。
  - ・5行目「It is often ...」から新しい段落とすることで、それ以前が日本人名の特徴、以後が翻字や仮名の読みについての説明であることが明確になる。この文章から段落を変える。
  - ・例示の表記はヘボン式に統一する。以降の表記もそれにならう。

<NAME ELEMENTS>

- ・ Elements normally forming part of a name
  2. Personal name
    - ・「Type」欄に書かれている「names written in *kanji* may have as the last character」は、「1. Family name」の「note」と同じく、注記の扱いとすべきである。その際に、haveの目的語を明示する（一例として「a letter such as」を追加）必要がある。
    - ・「Type」欄の例示について
      - ・「一 (ichi); 吉 (kichi)」を削除する。
      - ・「Takeshi」のあとに「or Ken」を追加する。
      - ・女性の例示を追加する。候補として、「美 (mi)」、「絵 (e)」。
        - ・「フミ子」の例に「文子」、「史子」を追加する。
        - ・「ひろみ」の例に「博美」（ひろ美？）を追加する。
  3. Whole name
    - ・「royal title」の例に「長屋王 (a member of royal family)」を追加する。
    - ・「name with title of position or office」の例として「和泉式部」を追加する。
    - ・「nickname, stage name, pen name, etc.」の例示に「タモリ」を追加する。
- ・ Additional elements to names
  - ・「stage name」ではなく「numeration」とする。その際に、「日本におけるnumerationは

役者などの世襲があるものに限る」という旨の注記をつける。

- ・「(Kabuki actor)」を「尾上菊五郎六代目」の下に移動させる。

#### < ORDER OF ELEMENTS IN CATALOGING HEADINGS >

##### ・ General rule

- ・「1. Personal name only」欄の「Buddhists」という表現は適切か。
- ・「(from earlier periods, or Buddhists)」を用いるのであれば、注記扱いにする。または現在の例に「園」（名だけである）、「空海」（号である）といった説明を追加する。
- ・「2. Family name」において、「*Type of name*」と「*Entry element*」欄の記載がともに「family name」となっているのはおかしいのではないか。（特に「*Type of name*」欄の「family name」）
- ・「*Type of name*」欄の3つの表記（「1. Personal name only」、「2. Family name」、「3. Whole name」）をNCRの表現（それぞれ「1. 姓または名のみの人名」、「姓と名から構成されている人名」、「3. 姓と名から構成されていない、全体を一語とした名前」）にあわせる。
- ・前述の「Elements normally forming part of a name」欄も含めた「*Examples*」表記の統一をはかる必要がある。その際には、ほかの言語の表記も参考となる。

例えば、「清少納言」のローマ字表記は、「Elements normally forming part of a name」欄では「Sei Shōnagon」、General ruleの「2. Family name」欄では「SEI Shōnagon」となっている。後者で「SEI」と大文字としているのは、entry element扱いであるためか。

entry elementであることを記載例（漢字形、ローマ字形ともに）に下線を引くことをもって示す。例：清少納言、SEI Shōnagon。

- ・日本語の表記として姓と名があること、姓は最初に現れることを序文（「Preliminary note」）で説明する。（ほかの言語（例：中国語）での表現を参考に）

既に「Elements normally forming part of a name」の「1. Family name」の注記で説明されている。この部分を「Preliminary note」内で説明するように移動する。

- ・「Elements normally forming part of a name」の順序と対応づけるために、「1. Personal name only」と「2. Family name」の順序を入れ替える。

・General ruleに対する例外を記載するのか、記載例として適当なものがあるのか。（現行では示されていない）

- ・例えば複合姓。候補としてクルム伊達公子。（「結婚して複合姓になった」といった説明も付記）
- ・例によっては「2. Family name」に含めて注記をつけて示すことも可能。ただし、そうすると例外として記載できなくなる。
- ・転置形の例として、アルベルト湯川。（以前にfirst nameが先に現れると説明しているが、この場合は例外として後ろにある、つまり「アルベルト湯川」となる。）
- ・号が含まれている場合（例：東洲斎写楽）を「1. Personal name only」のその他の例に

含める。

<National Cataloguing code>

・ 現行の内容ではNCR新版予備版となっているが、改訂3版に修正する。原文の2文目を削除する。(1987年版、1987年改訂版でも改訂2版でも標目部分の内容は変更されていない。)

< National authority file of names >

・ 最新版を確認し、適宜修正を行う。

・ 「*Japan MARC authority file for author's names*」の[magnetic tape format]を[electronic resources]に変更する。

<Romanization scheme in use>

・ 2番目の文の「in Western libraries and cataloguing codes」という表記を削除し、前の文と入れ替える。これによって、「ヘボン式が広く用いられていること、(公式なものとして)訓令式という表記もあること」を示す内容となる。ただし、これらの文のつなぐ表現を検討する必要がある。

・ 訓令式に関する説明文を削除する。

< Sources and recommended references >

・ 現在も刊行されているツールを中心とするが、資料として有用なものは出版年を問わずそのまま残しておく。

・ ツールの出版年について、最新版(最終版)の年あるいは刊行された期間を確認する。

・ 出版者が変更されたツールに対し、タイトルが変更されていなければ、出版者のみ更新する。タイトルが変更されていれば個別のツールとして扱う。

・ 「Gillis, I. V. and Pai, Ring-Chi. *Japanese surnames.*」および「Gillis, I. V. and Pai, Ring-Chi. *Japanese personal names.*」を削除する。

・ 「ReaD(研究開発支援総合ディレクトリ)」を追加する。

・ 「*Nihon bukke jinmei jisho.*」の責任表示は「Washio, Jinkei」ではなく、「Washio, Junkei」ではないか。(後日「Washio, Junkei」が正しいことを確認した。)

Checked and approved byの表記に関し、現行と同様に、日本図書館協会と国立国会図書館とすること、国立国会図書館をapproved byにする場合は、収集書誌部長名義とすることを確認した。

以上の点を踏まえて、東委員が修正稿を作成し、次回の委員会で再度内容を確認することとなった。

## 2. 目録に関する調査について

前回の委員会での意見を反映して修正した調査シート案（資料3）について、「提供」の項目は木下委員、「作成」の項目は酒見委員から説明があり、再度内容の見直しを行った。案に対する意見は下記の通り。

### < 「提供」の項目 >

・問1の選択肢「4 カード目録」、「5 その他」を、問2の2-10にある「カード目録ないし冊子体目録」という表記にあわせるため、「4 カード目録」、「5 冊子体目録」、「6 その他」に修正する。

#### ・問2

- ・2-3の「入力方法」を「入力手段」に修正する。
  - ・2-5の選択肢1のカッコ内の説明の冒頭に「大文字と小文字」を追加する。
  - ・2-5の選択肢「8 OPACの中でのヘルプ機能」に修正する。
  - ・2-5の選択肢において、4以降の番号がずれてしまっているため、修正する。
  - ・2-6の選択肢「1 書誌データの要素すべて」の位置を後ろにずらす。その際「11その他」の内容を含めた選択肢とする。
  - ・2-6の選択肢「6 内容細目の著者名」と「7 内容細目のタイトル」の順序を入れ替える。
  - ・2-6の選択肢「4 件名」と「8 分類記号」の位置が離れてしまっているが、両者を隣接させる。この点に関し、一案として「件名」を「分類記号」の後ろに移動させる。加えて、選択肢「9 内容紹介、あらすじ」を内容細目に関する選択肢の次に移動させる。
  - ・2-6の選択肢「5 原書名」を「翻訳書の原タイトル」に修正する。
  - ・2-6の選択肢「10 ISBN」を「標準番号（ISBN、ISSN等）」に修正する。
  - ・2-7の選択肢1の表現にある「グラフィックに表示」を「図示」に修正する。
  - ・2-7の選択肢3の「予約情報」を「予約状況」に修正する。
  - ・2-7の選択肢「7 URLによるリンク情報」を「ネットワーク情報資源へのリンク情報（URLなど）」に修正する。
  - ・2-8の選択肢1の表現を「図書と雑誌の同時検索」に修正する。
  - ・2-8の選択肢「5 検索件数上限を超える結果の場合（上限なし、上限件数まで出力、エラーメッセージのみ）」に対しては、以下の観点から再度検討する必要がある。
    - ・この選択肢が必要かどうか。
    - ・ほかに適切な表現がないか。（設問が長くなってしまってもよいか。）
    - ・そのほかの選択肢は番号をチェックするだけでよいが、この選択肢に限ってさらに選択させる方式となっている。
- 現段階では、これまでの表現に「（上限なし、上限件数まで出力、エラーメッセージのみ）」に三択とする旨の説明を付加するかたちとした。この選択肢に関して、次回あらためて検討を行う必要がある。

- ・ 2-8の選択肢6を「一覧画面での表示件数の選択可能」等の表現にあらためる。
- ・ 2-8の選択肢7および9を削除する。
- ・ 2-8の選択肢11の「(著者、シリーズ、...)」の部分「(例：著者、シリーズ、...)」に修正する。
- ・ 2-8の選択肢として、「ソート」、「絞り込み機能」を追加する。
- ・ 2-9の選択肢1の「利用者ガイド」のあとに「ボードあるいはパンフレット」等の用語を追加する。
- ・ 2-10の設問内容および選択肢が、提供に重点を置いたものとなるように再度検討する。
- ・ 2-11および2-12の「作成」を「提供」に修正する。2-12の回答例として「OPAC上で扱えない文字を扱うため」、「遡及入力の対象外となっている」などが想定される。

#### < 「作成」の項目 >

##### ・ 問3

・ 3-3で、設定する職員数の枠組みをどのようにするかについて、以下のような観点から意見が交換された。

- ・ 常勤、非常勤の区別は勤務時間の違いということか。
- ・ 現状に合わせて、委託や派遣等も加えるべきではないか。
- ・ 設定した枠組みから何を得たいのかを整理する必要がある。
- ・ 前回調査の枠組みをある程度反映できるようにする必要がある。

「専任職員（常勤）」、「兼務職員（常勤）」、「臨時職員（非常勤）」、「委託・派遣」の4つとする。

・ 3-4の設問対象は上の枠組みに従い「専任職員（常勤）」と「兼務職員（常勤）」とする。

##### ・ 問4

・ 設問の主旨を「カード目録及び冊子体目録の作成」から「作成している目録の種類」へ変更する。

・ 4-1は「貴館では、どのような種類・形態の目録を作成していますか」といった問いかけとする。

・ 問5の5-1の内容を包含させたかたちで4-1の選択肢を見直す。すなわち、「1 目録データベースのみを作成している」、「2 目録データベースに加えてカード目録や冊子体目録を作成している」、「3 一部のカード目録に限定して、維持・更新している」、「4 カード目録のみ作成している」、「5 冊子体目録のみ作成している」、「6 その他」とする。これによって、回答が多いと予想される順序に近い選択肢の並びになると想定される。このことと関連して、4-1の設問にある「(複数回答可)」を削除する。

・ 4-1の選択肢4の「維持・更新」を「作成」に修正する。

・ 4-2の設問を問5（以降では「問5（新）」）とする。

- ・問5はカード目録あるいは冊子体目録に限定した位置づけとなる。
- ・問5（新）の自由回答欄には、どの資料群に対してどういった理由で作成しているかを記述してもらおう。その際にカード目録の種類（4-3の内容）も含めて記述してもらおうことにする。
- ・4-4を削除する。
- ・問5
  - ・5-2の選択肢「1 新規に受け入れる全ての資料を収録対象としている」のあとに「（リモートアクセスは対象外）」という説明を追加する。
  - ・5-3の選択肢として「全て対象としない」という選択肢を追加する。
  - ・5-3の選択肢2「a 電子ジャーナル b 電子ブック c データベース」を個別の選択肢とし、さらに「d その他」も選択肢として加える。

[次回委員会での検討課題]

次回までに各委員が検討すべき事項として、[検討事項]の「2. 目録に関する調査について」に焦点を当てて列挙する。

- ・「提供」に関する項目
  - ・問2の2-8の選択肢「5 検索件数上限を超える結果の場合（上限なし、上限件数まで出力、エラーメッセージのみ）」の扱いをどのようにするか。
- ・「作成」に関する項目
  - ・今回の委員会で検討できなかった、問5の5-4以降の内容を確認する。
  - ・問4以降の設問に関して、作成している目録の種類を質問した後の流れを検討する。例えば、種類を問わない内容の質問、カード目録あるいは冊子体目録に特有な問いといった、種類を限定した内容の質問、さらにはそれらを組み合わせている場合（例：目録データベースに加えてカード目録を作成している）に対応した質問が想定される。それらに分けた上で、選択肢による個別の質問への案内などの対応を整理する必要がある。

今回はNCR改訂の議論も行うので、積極的な意見交換の場となるように、各自で検討を行う必要がある。

次回以降の委員会の予定

2009年12月26日（土）

2010年1月23日（土）

以上